



百歳おめでと〜うございませす

下前谷の林原利子さんが、3月30日に満100歳の誕生日を迎えられました。

利子さんは明治41年生まれ。毎日30分の体操をしたり、公民館の寿学級には必ず出るようにするなど、体や頭を使うように心がけておられるそうです。また、75歳から踊りをはじめられるなど、いろいろなことに関心を持って暮らしておられます。

町長から記念の品を受け取られると、利子さんは笑顔でお礼の言葉を述べられました。「とても百歳には見えません」という山口町長の言葉に家族の方が、「若いときから苦労をしたので60歳のころは年よりも老けて見えました。でも、それから顔がまったく変わらなかったので今ではとても若く見えます」と言っておられました。

これからもますますお元気で、ひ孫さんたちに囲まれ毎日を楽しくお過ごしください。



12年ぶりの拝顔

長田にある玉廉山清見寺で3月20日、町指定有形文化財「千手観音立像」が12年ぶりに公開されました。

この千手観音立像は、古くから子年（12年に一度）に1日限り開帳される秘仏で、高さ157センチ、室町時代末期の作と推定されています。

当日は護摩焼き法要、文化財解説、長田自治会による甘酒の振る舞いや餅まきなどがあり、盛大に開帳行事が執り行われました。この機会に千手観音立像を拝観しようと町内外からたくさんの参拝者があり、子孫繁栄や無病息災などを祈願しました。



浦安の舞

眞子神社（東坪）春の例大祭が4月9日に行われ、小学校6年生2人と5年生1人が浦安の舞を奉納しました。これは60年以上続けられているもので、毎年小学6年生の女子が舞姫をすることになっています。



農具の品定め

大山のふもとに春本番を告げる大山口農具市が4月6日、JR大山口駅一帯に立ち、農家の人たちや春休みの子どもたちでにぎわいました。この日は好天の下、駅前にある名物の桜の巨木も満開となり、ステージでは特別出演した歌手の桂木龍さんが「大山」を披露したほか、吹奏楽の演奏や踊り、大正琴などがにぎやかに繰り広げられました。